

トピックス 北地域交流会に参加

7月5日(土)に、北地域の地域交流会が台東リバーサイドスポーツセンターで、216名の参加を得て開催されました。私の担当教室からも、瑞江鶴の会、東大島鶴の会を中心に16名が参加して、皆さんと交流しました。当日の様子を落澤徹師範ご提供の写真でご紹介いたします。



裏浅草歴史散策会を行いました

同日、交流会の終了後、瑞江鶴の会、東大島鶴の会の有志に、清新鶴の会(指導；落澤徹師範)とサークルさくら(指導；宇留野良子師範)の有志も加わって総勢21人、小生の案内による「裏浅草歴史散策会」を行いました。私の創作謎解き川柳にしたがって以下の寺社や史跡をめぐるしました。一部ですが、川柳と場所をご紹介します。この謎解けますか？【右；広重・待乳山聖天宮と今戸橋】

碑が建って猫が招いてご繁盛	今戸神社
華と闇こもごも映す山谷掘	山谷掘・今戸橋跡
シヴァ神の息子と知らず拝みをり	待乳山聖天宮
追われきていよよ華やぐ猿若町	猿若町芝居小屋跡
粋と野暮華をめぐってにらみ合う	花川戸



散策の後には、浅草駅近くの中華料理屋さんで懇親会、これも大いに盛り上がりました。

早朝野外太極拳の会で室内研修会実施

清新くすのきプロバンス会の「早朝野外太極拳の会」の本年度の研修会を、7月19日に清新町コミュニティ会館で行いました。いつもは野外で練習しているので、今回は鏡のある部屋で自分の動く姿を見ながら、とくに歩型と運足を中心に勉強しました。終了後はビールとお弁当で懇親会を持ちました。

江戸川区教室交流会は9月28日(日)です！

第4回・江戸川区教室交流会は、9月28日(日)【10時から12時】に、北葛西コミュニティ会館で開催されます。対象教室の方はぜひ多数ご参加くださるようお願いいたします。区内19教室の各先生方には、すでにご案内状をお送りして、現在申込みを受け付け中です。

閑人閑話 薬を飲まざるを得ない理由と環境

できるだけ薬に頼らずにと言われても、“薬を飲まないなんて出来ない”という反論が多くありました。たしかに、あらゆる意味で、患者は医者や医療に頼らざるを得ないのが実態です。

お医者さんも、現在の健康保険制度の下では、患者に対して生活指導をするだけでは、十分な報酬を得

られないばかりか、患者から反発されることも必至です。3月号(第115号)でもご紹介したように、とくに“シルバー患者”の心境と言うのはこういうものなのですから…。

三時間待って病名「加齢」です 「お年です」それが病気か田舎医者

“何十年も健康保険料を払ってきた”から、“いま使うのは当然の権利”と言う正論もあります。また、ともかく、注射をしてもらうとか、薬を処方されることで、とりあえず安心と言う心理もあるわけです。

こうした患者の立場、そしてお医者さんの立場に加えて、製薬会社の立場も忘れるわけにはゆきません。製薬業界もグローバルな競争の中で生き抜くために必死です。今回の降圧剤デオパンをめぐる不祥事は氷山の一角でしょう。売るための工夫と策略（あるいは戦術戦略・マーケティング）は当然必要です。倫理よりも商利の方に目が向けられざるを得ないのは、医薬業界に限らず、すべての産業企業に共通な現代社会の危うさではないでしょうか。

朝日新聞の7月13日朝刊の『私の視点』欄に興味深い発言が掲載されていたので、ご紹介します。『認知症治療薬「ボケ防止」の服用は危険』と題して、神津内科クリニック院長神津仁先生が、以下のような問題を提起しておられます。概要は……。

『認知症治療薬が、まだ認知症に至っていないMC I（軽度認知機能障害）の人たちに投与されるケースが増えているが、これは効かないばかりではなくかえって有害である。認知症治療薬をMC Iの人に投与するのは、本来は公的医療保険の対象外だが、現実には医師が診療報酬の請求書に“認知症の患者に投与”と記せば素通しで保険適用されている。加えて、各製薬会社は専門外の医師に対してもこの薬の普及広報に努めているので、整形外科医から、“これを飲んでおけばボケない”と勧められたり、患者が逆に“ボケたくないので処方してほしい”と内科医に頼んで出してもらったケースもある。認知症治療薬は「ボケ防止薬」ではない。保険診療のルールを無視して安易に投薬するのは危険だし、患者もそれを求めてはいけない。認知症への不安や断片的な情報に惑わされないでほしい。』……と言うものです。如何でしょうか？降圧剤問題に共通する、危うさと根の深さを感じさせる問題です。

ところで、わたくしたちは、いつでも、どこでも、あらゆる分野において、『優しく脅迫され、静かに洗脳され続けられている』のです。たとえば、テレビのCMのすさまじさだけでもよくお分かりいただけると思います。それは万国共通の“マーケティングの根幹”であり、それによって市場が大きくなり経済が発展するというのが大方の人々が肯定している、あるいは受け入れさせられている普遍的な、かつグローバルな仕組みなのです。人間のあらゆる欲望、希望をたんに肯定するばかりではなく、その欲望、希望を、人為的、社会的に、つまり商業的に、限りなく増幅、肥大させることによって成り立っている仕組みと言い換えることも出来ます。薬品もサプリも健康食品もその一部に過ぎません。

薬について話を戻せば、とういうことから、薬を飲むことを止めるということは、患者個人にとっては、実はたいへんむずかしい、勇気の要ることなのです。

でも、自分を治すのは究極のところ、自分の「自然治癒力」、「生命力」、中国的に言えば「気」、なのではないでしょうか？というのが太極拳から学んだ私のつぶやきです。

旅をうたい拳を詠む

箱根に遊ぶ

早川の瀬音聞きつつ紅色のあじさい橋を渡れば湯の宿
湯の香りひのきの薫りに包まれてひたる湯舟に緑風わたる
虫や葉をすくう網ある露天湯はサルに注意の立札もあり
とりどりに咲く紫陽花を分けるがに登山電車はぎしぎしと行く
水無月のみどり色濃き箱根路の山肌彩るやまぼうしの白
ロープウェイのロープの先は霧に消え

わがゴンドラは宙に浮かべり

